

A3593	東京メトロ6000系 6130編成 晩年 基本6両セット	予価:36,410円(本体価格33,100円)
		JANコード:802694 カートン内入数:12

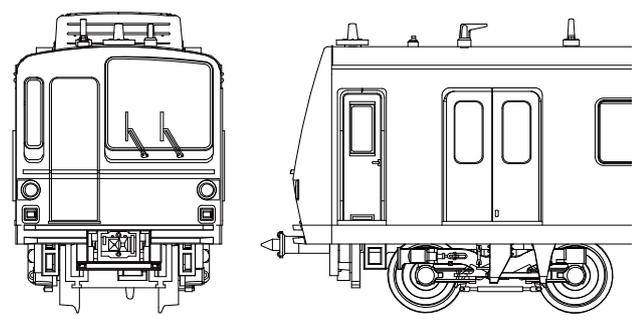
A3594	東京メトロ6000系 6130編成 晩年 増結4両セット	予価:21,890円(本体価格19,900円)
		JANコード:802700 カートン内入数:12

商品形態	Nゲージ塗装済完成品(素材:ABS樹脂製 対象年齢:14歳以上 ブックケース入り)
-------------	---

実車	1968年に営団地下鉄(現:東京メトロ)は電機子チョップ制御を用いた世界初の電車、6000系を登場させました。主制御回路に半導体素子が採用された事で従来は機械的な可動接点によって行っていた制御回路の無接点化に成功し、信頼性・メンテナンス性が大幅に向上しました。また回生制動が実用化され、トンネル内部の発熱解消に寄与するとともに、消費電力の少ない「省エネ電車」としても注目を集めました。1971年から量産が開始された6000系の車体はアルミ合金製無塗装で、腰部にラインカラーの緑色の帯が巻かれました。前面は窓の無い非常用扉を片側に寄せて運転室窓を大きく採った大胆な左右非対称の形状で、その後の車両デザインに大きな影響を与えました。6000系は改良を続けながら増備され、1981年に製造されたグループからは側面窓が一段下降式の物に変更された外見上の特徴があります。また登場から長期間経過した6000系は各種修繕工事が行われ、2004年以降に施工された車両は客用扉窓の拡大や大容量の冷房装置への交換など外観の変化が大きく、特徴ある姿で活躍を続けました。2010年代には後継の16000系の増備に伴い順次引退が進み、2018年10月に定期運行を終了、11月11日までの土休日には6102編成と6130編成を使用したお別れ運転が行われて50年の歴史に終止符を打ちました。
-----------	--

商品概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロエース私鉄電車シリーズの更なる充実 ・東京メトロの名車6000系を久しぶりの製品化 ・ヘッドライト、テールライト、前面表示器点灯 ・フライホイール付動力ユニット搭載
-------------	--

左右非対称デザインの先駆け！東京メトロ6000系晩年の姿



東京地下鉄株式会社商品化許諾申請中

- A3574/75(2009.06)を基にしたバリエーション製品
- 東京メトロ千代田線に最後まで残存した6130編成を製品化
- ベビーカーマークが追加され、弱冷房車表記に英文が追加された最晩年の姿
- 先頭車ボディの寸法を見直し、よりリアルな姿に
- 両先頭車ともワイパーが全て黒色化された姿(写真とは異なります)
- グレー地の営団団章を行先シールに収録

編成図 **A3593** **A3594**



ライト ←本厚木・唐木田・代々木上原 (M) 綾瀬・取手→ ライト

オプション	幅広室内灯:G0001/G0002/G0003/G0004, マイクロカプラー密連・灰:F0002
--------------	---

付属品	行先シール
------------	-------